

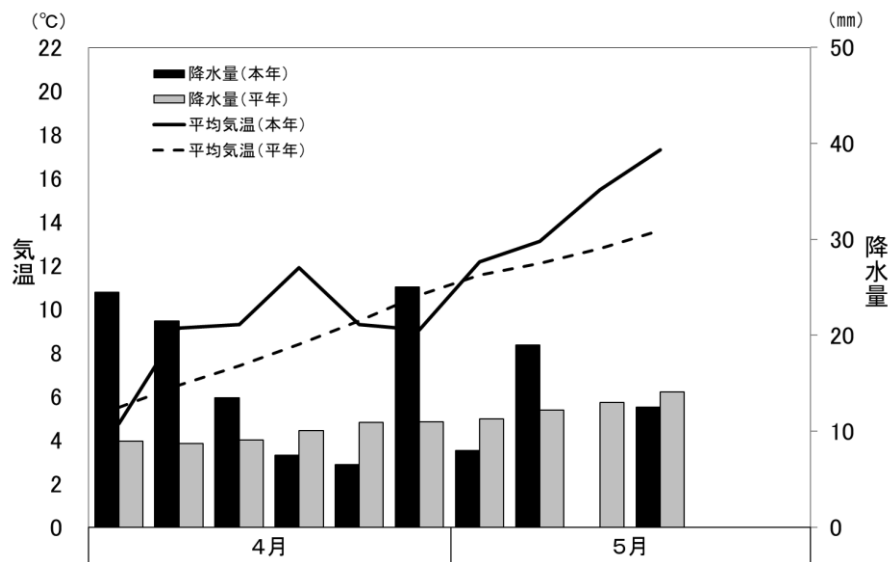
上北農業生産情報 第2号

令和7年5月26日

青森県上北農林水産事務所

- ながいも、ごぼうの土壌消毒でクロルピクリン剤を使用する際は、必ず被覆し、安全かつ適正に処理しましょう!!
- 農作業事故には十分注意し、事故のないように心がけましょう!!

気 象



半旬別平均気温・降水量の推移（十和田アメダス）

<4月>

平均気温は、上・中旬は平年を上回り、下旬は平年を下回った。

日照時間は、期間を通して平年を下回った。

降水量は、期間を通して平年を上回った。

【4月の気象（十和田アメダス）】

項目 時期	平均気温℃		最高気温℃		最低気温℃		日照時間 h		降水量 mm	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
上 旬	7.0	6.0	11.9	11.5	2.6	0.4	52.5	60.3	46.0	17.7
中 旬	10.6	7.9	16.1	13.7	6.3	2.0	40.3	61.8	21.0	19.2
下 旬	9.2	10.1	13.6	16.0	5.5	3.9	43.4	64.2	31.5	21.9

注) 気温は10日間の平均、日照時間と降水量は10日間の合計。

<5月上・中旬>

平均気温及び日照時間は、期間を通して平年を上回った。

降水量は、上旬は平年を上回り、中旬は平年を下回った。

【5月上・中旬の気象（十和田アメダス）】

項目 時期	平均気温℃		最高気温℃		最低気温℃		日照時間 h		降水量 mm	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
上 旬	12.7	11.8	18.3	17.7	7.2	5.9	64.2	63.3	27.0	23.5
中 旬	16.4	13.2	22.1	18.8	10.1	7.8	64.1	62.7	12.5	27.1

注) 気温は10日間の平均、日照時間と降水量は10日間の合計。

東北地方 1か月予報（5月23日から6月22日までの天候見通し）

令和7年5月22日 仙台管区气象台 発表

○期間の前半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。

○期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

水 稲

《生育状況》

- 1 育苗期間を通して、4月の日照時間は少なかったものの、平均気温は平年並であったことから、苗の生育は概ね順調であった。田植え前の5月第3半旬に気温が上昇したことから、苗が伸張し徒長気味の苗がみられた。
- 2 田植え作業は、早いところで5月2日頃から始まった。管内全体の田植え始め（5%到達日）は平年並の5月14日であった。

《今後1か月間の主な作業》

1 水管理

田植え後は苗の活着と生育を促進させるため、「昼間止水・夜間かんがい」の基本を守る。温暖な日は2cm程度の浅水で水温を上昇させ、低温の日は苗が冠水しない程度の4～5cmのやや深水で管理する。

2 病虫害防除

ア 補植用苗をほ場に放置するといもち病の発生源となるので、補植が終わったら直ちに処分する。

イ 畦畔のイネ科雑草はカメムシの発生源となるので、開花・結実する前にこまめに刈り取る。

3 除 草

除草効果を高めるとともに水質汚染を防ぐため、除草剤散布後7日間は落水や掛け流しは行わない。

小 麦

《生育状況》

- 1 生育観測ほ（5月9日現在）の生育は、草丈は平年を上回り、茎数は平年を下回った。
- 2 生育観測ほの出穂期は、平年より2日早い5月18日であった。
- 3 病虫害の発生はみられなかった。

【生育観測ほの生育状況（品種：ネバリゴシ）】

調査地	年次	5月9日現在		出穂期 (月/日)	開花期 (月/日)
		草 丈 (cm)	茎 数 (本/m ²)		
十和田市相坂	本年	60.2	624	5/18	—
	平年	53.4	891	5/20	5/27
	前年	67.7	867	5/12	5/19

注) 平年値は平成23～令和6年の14か年の平均値

平年、前年値は5月10日調査値

《今後1か月間の主な作業》

1 病虫害防除

ア うどんこ病

うどんこ病は、発生初期と7～10日後の2回、薬剤散布を行う。特にネバリゴシはうどんこ病に弱いので、蔓延させないように発生状況に注意する。

また、うどんこ病の薬剤散布を1回とした場合は、止葉直下葉での発生直後に薬剤を散布すると効果的に抑えることができ、収量・品質低下に対する影響も小さくなる。

イ 赤かび病

赤かび病は出穂期～乳熟期にかけて降雨や濃霧が続くと発生しやすいので、開花始め～開花期に1回、その7日後に1回散布する。

また、同一系統の薬剤を連用すると、うどんこ病及び赤かび病に対し耐性菌が出やすいので連用しない。

ウ 注意事項

うどんこ病等の対策としてアミスター20フロアブル〔FRAC:11〕を散布した場合、かび毒の産生量を増加させた事例があるので、出穂後は使用しない。

大 豆

《今後1か月間の主な作業》

1 施肥

施肥方法は、原則として全量基肥とする。

【施肥量の目安】

(10a 当たり施肥量)

区 分	窒素	りん酸	加里
基 肥	2～3kg	10～15kg	8～10kg

注) 前年に野菜類を作付した場合は無肥料(窒素成分)とする

2 種子準備

紫斑病及び鳥害・虫害対策のため、必ず種子消毒を行う。

3 は 種

下表を基準に、は種時期が早い場合は疎植、遅い場合は密植して生育量を確保する。

【品種別栽植様式(おおすず)】

は種期	うね幅	栽植本数	は種量
5月中旬～5月下旬	60～80cm	20,000本程度/10a	7～8kg/10a
5月下旬～6月上旬	60～80cm	20,000～30,000本/10a	7～12kg/10a

4 除 草

ア は種後出芽前に土壌処理剤を散布する。土中で種子が萌芽していると薬害を受ける恐れがあるため、は種後3日以内の散布を目安とする。

イ ほ場が乾燥している場合は、散布水量を多めにする。

ながいも

《今後1か月間の主な作業》

1 土壌くん蒸剤の使用

土壌くん蒸剤の使用に当たっては、人畜への被害や周辺作物にドリフトしないよう対策を徹底する。特に、クロルピクリン剤を使用する場合は、すぐにポリエチレンフィルム等（厚さ 0.03 mm 以上または難透過性の資材）で被覆し、使用済みの空き缶は、適切に処分する。

2 植付け

ア 100～150g の子いもは、頂芽を切除して5月中旬～6月上旬に植え付ける。

イ 切りもは 120～150g 程度に切断して、5月下旬～6月上旬に植え付ける。

ウ 種子生産のための小切片による2年子生産は、5月下旬～6月上旬に植え付ける。

エ 土壌くん蒸剤を使用した場合は、くん蒸剤の臭いがないことを確認してから植え付ける。

3 支柱立て・ネット張り

萌芽揃い前までにネット張りを完了する。

4 施肥

基肥量は、10 a 当たり窒素成分で 6～10kg を基準とし、時期は利用効率の良い萌芽期（萌芽が 50% の頃）に施用する。

にんにく

《生育状況》

- 1 上北管内の白玉王のりん片分化期は平年より 3～7 日遅い 4 月 18 日～23 日に確認された。4 月下旬の気温が平年より低く推移したため、管内全体の草丈・生葉数・茎径は平年並～下回っている。
- 2 一般ほ場の生育は、葉先枯れ症状などの発生が少なく順調であるが、最低気温が 10℃ を超え始めた連休明けから、さび病や春腐病が見え始めている。今後の広がりには注意し、腐敗株の抜き取りなどの初期防除を徹底する。

【生育観測ほの生育状況】

調査地	年次	植付期 (月日)	りん片 分化期 (月日)	5 月 10 日現在		
				草丈 (cm)	生葉数 (枚)	茎径 (mm)
七戸町榎林	本年	10/17	4/21	65.9	7.8	18.6
	平年	9/30	4/17	72.0	7.7	20.3
	前年	10/17	4/17	75.3	8.4	17.8

注) 平年値は近 10 年間の平均値

《今後1か月間の主な作業》

1 病虫害防除

ア 春腐病やさび病の発生は、降雨や濃霧が発病のきっかけとなるので、気象予報等を参考に降雨前の予防防除を行う。薬剤散布に当たっては、使用薬剤の選択（適用病虫害・総使用回数・収穫前日数等）に注意する。

- イ ネギコガ、ネギアザミウマ等の害虫は早期発見、発生初期の防除に努める。
- ウ 春腐病による腐敗株は散布前に必ず抜き取る。
- エ 黄斑病は急激に蔓延・葉枯れしやすい病害です。本病の病斑を確認した場合は、5～7日おきに薬剤散布し蔓延防止を図る。

2 とうの摘み取り

抽だいが始まったら随時見回り、とうを摘み取って球の肥大を促す。とうの摘み取りは、総苞(とう先端部全体を包んでいる葉)が葉鞘から完全抽出した株に対して行う。

春だいこん

《生育状況》

- 1 生育観測ほ(トンネルマルチ栽培)の生育は、断続的な降雨の影響で葉長、葉数ともに平年よりかなり下回っている。肥大期の日照不足と低温で、根重は平年比38%と大幅に下回っている。病虫害の発生は見られない。トンネル除覆は5月3日(前年比7日遅い)であった。
- 2 一般ほ場の生育は概ね順調で、トンネル除覆は4月第5半旬から始まっている。病虫害の発生は例年同様に少ない。は種が早いところでは5月第4半旬から収穫が始まる。

【生育観測ほの生育状況(品種:春の星、栽培法:トンネルマルチ)】

調査地	年次	は種期 (月/日)	5月10日現在		
			葉長 (cm)	葉数 (枚)	根重 (g)
おいらせ町内山平	本年	3/23	31.0	16.5	122.7
	平年	3/19	34.9	20.9	321.1
	前年	3/28	30.9	18.0	282.6

注) 平年値は令和6年までの過去10か年の平均値

《今後1か月間の主な作業》

- 1 収 穫
3月中旬には種した作型では、5月下旬頃が収穫期となるため、根部の肥大状況をよく確認し、適期に収穫する。
- 2 病虫害防除
キスジノミハムシの発生が見られるほ場では、トンネル除覆後に防除する。

春夏にんじん

《生育状況》

- 1 生育観測ほ(べた掛け栽培)は、4月から5月上旬にかけての降雨と日照不足による生育の停滞が見られる。前年より5日遅い5月16日に除覆が行なわれた。病虫害の発生は見られない。
- 2 一般ほ場の生育も前年より5日程度遅れている。除覆作業は、トンネルは5月第2半旬から、べた掛けは5月第3半旬から始まっている(どちらも前年より5日程度遅い)。病虫害の発生は見られない。

【生育観測ほの生育状況（品種：紅吉、栽培法：べた掛け）】

調査地	年次	は種期 (月/日)	5月10日現在		
			葉長 (cm)	葉数 (枚)	根重 (g)
六戸町下吉田	本年	3/25	7.4	3.0	0.1
	平年	3/13	21.1	5.3	5.8
	前年	3/26	12.4	3.6	0.3

注) 平年値は令和5年までの過去10か年の平均値（トンネル栽培）
前年からべた掛け栽培へ栽培方法を変更

《今後1か月間の主な作業》

1 管理作業

トンネル・べた掛けの除覆作業、間引き作業及び除草管理を適期に行う。

2 病害虫防除

トンネル除覆後に、ニンジンハネオレバエの予防防除を行う。

ごぼう

《生育状況》

- 1 生育観測ほ（三沢市猫又）のは種は5月14日で、平年より12日遅かった。
- 2 一般ほ場の作溝及び土壌消毒作業は、4月上旬から始まり4月下旬が最盛期であった。は種は5月上旬から本格化している。

《今後1か月間の主な作業》

1 畑の準備、土壌くん蒸剤の使用

- ア 排水対策を徹底し、堆肥の施用や土壌診断に基づいた施肥により、土づくりを行う。また、やけ症を未然に防止するため、未熟有機物や過剰な堆肥は施用しない。
- イ 土壌くん蒸剤の使用に当たっては、人畜への被害や周辺作物にドリフトしないよう対策を徹底する。特に、クロルピクリン剤を使用する場合は、すぐにポリエチレンフィルム等（厚さ0.03mm以上または難透過性の資材）で被覆し、使用済みの空き缶は、適切に処分する。

2 は 種

- ア は種の際は、土壌の水分状況に留意する。シードテープの深さは、土壌水分が十分な時は0.5～1cm程度、乾燥の心配がある場合は2～3cm程度に調整し、出芽を揃えるため、植え溝は丁寧に鎮圧する。
- イ 土壌くん蒸剤を使用した場合は、くん蒸剤の臭いがいないことを確認してからは種する。

ばれいしょ

《生育状況》

- 1 生育観測ほの植付期は平年より4日早い3月25日で、萌芽期は7日遅い5月8日であった。5月2日から芽出し作業が行われている。茎数は平年よりやや多いものの、降雨の影響で生育は停滞している。

- 2 一般ほ場の生育も停滞気味であるが、萌芽は平年並の4月下旬～5月上旬で、5月上旬より芽出し作業が始まっている。また、萌芽が早かったほ場での芽欠き作業は5月第3半旬から始まっている。

【生育観測ほの生育状況(品種:メークイン、黒マルチ)】

調査地	年次	植付期 (月/日)	萌芽期 (月/日)	5月10日現在	
				草丈(cm)	茎数(本)
三沢市庭構	本年	3/25	5/8	6.4	2.6
	平年	3/29	5/1	13.7	2.4
	前年	3/25	5/3	18.2	2.1

注) 平年値は令和6年までの過去10か年の平均値

《今後1か月間の主な作業》

1 追肥、中耕・培土

着蕾期(40～50%の株が蕾を付ける時期、5月下旬～6月上旬)に窒素成分で10a当たり4～5kgを追肥し、中耕・培土を行う。

2 病虫害防除

6月中旬になると疫病が発生しやすくなるので、発生前からの予防防除を主体に定期的に薬剤散布を行う。また、同一薬剤の過度な連用は避ける。

りんご

《生育状況》

生育観測ほの開花日は、「ジョナゴールド」が平年より3日遅い5月7日、「王林」は平年並みの5月2日、「ふじ」が2日遅い5月9日であった。

【生育観測ほの生育状況】

調査地	品 種	年次	発芽日 (月/日)	展葉日 (月/日)	開花日 (月/日)	満開日 (月/日)	落花日 (月/日)
十和田市米田	ジョナゴールド	本年	4/ 1	4/12	5/ 7	5/13	5/17
		平年	4/ 3	4/14	5/ 4	5/10	5/17
	王 林	本年	4/ 3	4/13	5/ 2	5/ 9	5/14
		平年	4/ 4	4/14	5/ 2	5/ 8	5/13
	ふ じ	本年	4/ 5	4/15	5/ 9	5/14	5/19
		平年	4/ 7	4/17	5/ 7	5/11	5/16

注) 平年値: ジョナゴールド・王林は平成22～令和6年の平均値、
ふじは平成19～令和6年の平均値

《今後1か月間の主な作業》

1 病虫害防除

黒星病の重点防除時期なので、りんご病虫害防除暦に記載された薬剤を、降雨前に10日間隔で散布し防除を徹底する。

腐らん病の発生が多く見られている。枝腐らんは、5～6月以降も発病してくるので見つけ次第切り取り、胴腐らんは、再発病斑を含め、適切に処置を行う。

2 摘 果

摘果は実止まりを確認後、すみやかに実施する。

果実形質の良し悪しが判然としない落花 15 日後頃までは一つ成り摘果とし、判別が可能になった時点から仕上げ摘果を行う。ただし、「つがる」などのように早期落果の多い品種は、落花 10 日後頃までに一つ成り摘果を終える。

仕上げ摘果は標準的な着果程度を目安に、「陸奥」、「世界一」は落花 15 日後頃までに、その他の品種では落花 25 日後頃までに終えるようにする。

牧 草

《生育状況》

生育観測ほの草丈は、平年並みで推移している。

【生育観測ほの生育状況（品種：オーチャードグラス）】

調査地	年次	5月10日現在 草丈(cm)
十和田市米田	本年	59.6
	平年	57.2
	前年	74.5

注）平年値は令和6年までの過去10か年の平均値

《今後1か月間の主な作業》

牧草の刈取りは出穂始期から出穂期に行い、開花始期までに終え、乾草又はサイレージ調製する。その後、速やかに追肥し、必要に応じて除草剤散布する。

飼料用とうもろこし

《今後1か月間の主な作業》

1 は 種

10 a 当たり栽植本数は、極早生種で8,000本、早生種で7,000本、中生・晩生種で6,000本を標準とし、早めには種を終えるようにする。

2 雑草防除

各ほ場で例年発生が多い雑草の種類に応じて除草剤を選択し、農薬の登録内容等を確認して適正に使用する。